



カケハシ・プロジェクト派遣プログラムの記録

対象：「アメリカで沖縄の未来を考える」(TOFU) プログラム

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国へ沖縄県の高
校生・大学生等計 25 名が派遣され、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解
促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2019 年 3 月 20 日～3 月 27 日の日程で
プログラムを実施しました。

一行は、交流先で日本や沖縄の魅力紹介プレゼンテーション及び実演を行い、視察先
では米国や日米両国の関係について理解を深めました。プログラム中、各々の関心事項
や体験について SNS を通じて積極的に对外発信を行いました。また、帰国前の報告会で
は、訪米経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎
に発表しました。

【参加団体・人数】

沖縄県の高校生・大学生等 計 25 名

【訪問地】

米国（ワシントンD.C.、ニューヨーク）

2. 日程

- 3月20日(水) 【表敬訪問】駐日米国大使館 ヤング首席公使
【表敬訪問】外務省 辻外務大臣政務官
【到着】
- 3月21日(木) 【オリエンテーション】
【表敬訪問】国務省
【視察】ナショナル・モール
- 3月22日(金) 【表敬訪問】ホワイトハウス・NSC 国家安全保障会議
【視察】国立公文書館
【表敬訪問】アメリカ合衆国日本国大使館 相川次席公使
- 3月23日(土) 【交流】グローバライズ DC ジャパン・プラス (NPO 団体が運営する
日本語クラス)
【視察】全米日系米国人記念碑
【講話】日系人収容体験者による講話
ワシントンD.C. からニューヨーク州へ移動
- 3月24日(日) 【交流】日米合同教会
【ワークショップ (報告会準備)】
【成果報告会】

- 3月25日(月) 【表敬訪問】国連日本政府代表部 別所特命全権大使
 【表敬訪問】国連日本政府代表部 川村特命全権大使
 【表敬訪問】国連日本政府代表部 小松原国連開発計画アフリカ局
 TICAD プログラム・アドバイザー
 【表敬訪問】ケネディ前米国駐日大使
 【視察】国際連合本部
- 3月26日(火) 【出発】
- 3月27日(水) 【帰国】

3. プログラム記録写真

	
<p>3/21 【表敬訪問】 国務省</p>	<p>3/22 【表敬訪問】 ホワイトハウス</p>
	
<p>3/23【交流】グローバライズ DC ジャパン・プラス</p>	<p>3/24 【交流】 日米合同教会</p>
	
<p>3/25 【表敬訪問】 ケネディ前米国駐日大使</p>	<p>3/25 【視察】 国際連合本部</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 今回のプログラムを通して、私は、「世界平和は実現できる!」と強く思いました。一生かけても経験できない本当に貴重な体験を1週間でしたため、あまり上手くまとめられません。帰国後はしっかり整理して、他の人に発信していきたいと思えます。私達のために、貴重な体験の場を準備していただき、本当に本当に感謝しています。外務省の方々、その他の、このプログラムに尽力していただいた方々に、“私達を連れて行ってよかった”と思ってもらえるよう、みんなで活動していきたいと思えます。また、志の高い高校生や大学生と共に過ごせたことも素晴らしい体験となりました。本当に参加してよかったです。

◆ 日本国大使館で日本は世界の各国に対しても重要な役割をしていると聞き、世界に必要とされる日本っていいなと感じました。また、アメリカと日本は、軍の印象が違うことに驚き、アメリカは軍に対し信頼性があるとわかりました。国連は中立的な立場であると共に、常に2つの視点から物事を見ていてすごいと感じ、国連の人の講話を聞いて、今までは将来の夢が決まっていなかったけれど、誰かのために平和な世の中にするために自分が今できることは何か考え将来に活かしたいと思えました。常に、問題や出来事を世界と関連づける重要性を学びました。

◆ 全米日系米国人記念碑を訪れ、日系人収容体験者であるヤマダさんから話を伺いました。私は今まで沖縄戦のことだけしか勉強したことがなく、日本からの移民の存在を知る機会があまりありませんでした。そのため、ヤマダさんの話はとても興味深く、勉強になりました。移民をした方々は日本から遠く離れたアメリカで、つらくて誰にも相談できない時もあったのに、一生懸命生きるために頑張っていたそうです。私は戦争すら知りませんし、体験したこともありません。だけど、平和な時代に生まれた私達だからこそ、テロや差別と言った「新しい戦争」のために戦わなければなりません。また、先祖の方々が頑張ってくれたからこそ、私が生まれ今日まで生きることができたので、感謝の気持ちを忘れずに、またこの話を友達にも伝えたいです。

5. 受入れ側の感想

◆ 交流参加社会人

プログラムはとても良く設定されていました。私達の教会のメンバーは、カケハシの生徒達との会話を楽しみました。彼らはフレンドリーで、知性があり、敬意と強い関心を持って私達と交流をしてくれました。各参加者は、沖縄、または日本の文化について様々な側面をプレゼンテーションしてくれました。私は、日本への総合的な理解を深めたと思えます。短い時間でしたが、友達になれました。

◆ 交流参加社会人

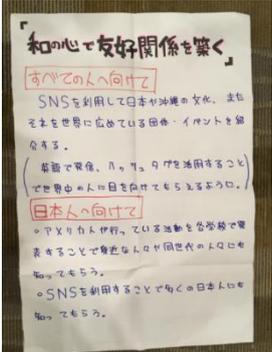
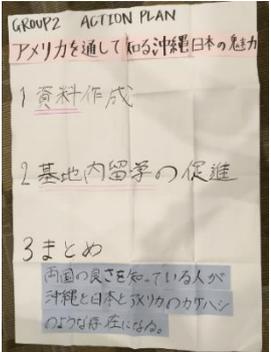
私は日本に何回も行ったことがありますが、沖縄には行ったことがありません。今回、素晴らしい若者達に会って、将来必ず日本に行こうと思えました。今日は、沖縄文化について楽しく、親しみを持って学ぶことができました。このようなことがカケハシ・プ

プロジェクトの目的であるならば、素晴らしい取り組みをしていると思います。このまま続けてください。

6. 参加者の対外発信

	
<p>交流プログラムについての発信 (Instagram)</p> <p>現地の日本語を学習している生徒と交流をしました。沖縄の事を沢山発信しとても良い時間を過ごすことができました。この出会いを大切にしたいです。</p>	<p>国連視察について発信 (Instagram)</p> <p>ニューヨークにある国連にお邪魔してきました。国連日本政府代表部の別所大使と川村大使、また国連開発計画の小松原さんにお会いして貴重なお話を伺ってきましたよ。とてもためになりました。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>アクション・プランの発表 1</p> <p>和の心で友好関係を築く</p> <p><u>全ての人に向けて</u></p> <p>SNS を利用して日本や沖縄の文化、またそれを世界に広めている団体・イベントを紹介する。</p> <p><u>日本人に向けて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ人が行っている活動を各学校で発表することで身近な人々や同世代の人々にも知ってもらう。 ・SNS を利用することで多くの日本人にも知ってもらう。 	<p>アクション・プランの発表 2</p> <p>アメリカを通して知る沖縄・日本の魅力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 資料作成 2 基地内留学促進